

I. 以下の2015年に出版された『増補 日本語が亡びるとき—英語の世紀の中で』(水村美苗著 ちくま文庫)の一節を読み、下の問題に答えよ。

-----

英語の時代において、どのように英語＝外国語を学ぶかという問題——それは非英語圏の人たちだけの問題だとは思えない。どのように自分たちの言葉以外の言葉を学ぶかは、英語を母語とする人たちも考えるべき問題ではないだろうか。世の中にさまざまな言葉があるのを知るの、世の中の見かたがさまざまでありうるのを知ることであり、人間として当然持つべき謙虚さを身につけることにつながる。だからこそ、英語を母語とする人たちも、当然のこととして、外国語を学ぶべきである。義務教育及び高等教育で外国語の学習は必須科目になるべきである(今、アメリカの教育で外国語教育がますます疎かにされつつあること、さらにはアメリカで出版される全書籍のうち、翻訳本が三パーセントしか占めないこと、翻訳文学となると、なんと、0・七パーセントしか占めないことなどを考えると、大国にふさわしい人材が十分に育っているか不安になる)。また、国際会議で使われる英語は国際語として、ある程度、規格化されるのが望ましいと思う。英語圏の人にしか理解できない冗談などは、いくら当人たちは楽しくとも、遠慮してもらえればと思う。加えて、いわゆる「Simple English＝かんたんな英語」と、子供の使う英語とを混乱しないでくれたらと思う。英語を母語とする人たちは、ラテン語系の単語を銜学的だと言って敬遠するが、外国人にはそのほうがわかりやすいのである。外国人にとっては、子供の使う「母語度」が高い英語のほうが、わかりにくい。

問1 文章の内容にあっている文を下のA～Gから3つ選べ。

- A. 複数の言語を学ぶことは謙虚さを身につけることにつながる。
- B. 普遍語としての英語を話せるならば別の言語を学ぶ必要はない。
- C. アメリカで出版される翻訳書のうちの大部分を文学書が占めている。
- D. 国際会議では自文化・自国語の冗談は伝わりにくいので避けるべきである。
- E. Simple Englishとは英語圏の子供たちの会話を基にした英語である。
- F. 非英語圏の話者とのコミュニケーションではラテン語系の単語を避けたほうがよい。
- G. Simple Englishと英語圏の子供たちの英語では前者のほうが「母語度」が低い。

II. 以下は 2017 年に出版された『国際語としての英語—進化する英語科教育法』（若本夏美・今井由美子・大塚朝美・杉森直樹著）の一部である。文章を読んで続く各問いに答えよ。

-----

現在、時間と経済的余裕があれば「英語をマスターしたい」という目標を掲げ英語圏に語学研修に行くことは容易にできるようになった。英語学校の情報はインターネットでいくらでも収集可能であるし、場合によっては英語を使うことなく入学手続きから渡航準備をすることも可能である。現地では ESL の授業を終え、日本人仲間と行動を常に共にし、部屋に戻ればインターネットで日本のニュースを日本語で夜遅くまでチェックする。数字さえ読むことができれば、買い物に行って英語が話せなくてもなんら困ることはない。教室を出て使う英語は“”と“Excuse me.”だけということも珍しくない。何のために「そこ」へ行ったのか。英語を使わなければいけない環境に身を置くために、あえて覚悟を決めて語学研修へと向かうのが本来の姿であるが、情報社会である今日、便利なものに囲まれた生活がある。その便利さを享受しつつもあえてわれわれが心掛けなければならないのは、積極的に自ら行動する意欲、失敗を恐れず他者と関わっていく勇気を常に持つことである。

例えば、“Do you like reading books?”と Yes-no 疑問文で質問された場合、Yes または No の一言で返答することは簡単であるが、そこでもう一言付け足す努力をしてほしい。“Yes, I do. I like science fiction very much.”“Oh, you do? I like historical novels.”と会話が続く。“What did you read lately?”“Oh, if you are interested, I really recommend this novel to start.”とさらに進む。最初は読書が好きかどうかの質問から、どのような本を読んだか、どのようなことをその本から学んだかという話題へと展開していく。読書の経験が材料となり会話が意味をもった内容となる。

例えば、誰かが何かを発表する。発表が終わると“”と聴衆に視線が当てられるのが一般的である。であるならば、「何かひとつ質問しよう」という気持ちで発表を聞くようにしよう。最初は“Thank you for your presentation. It was an interesting research.”と感想を述べるだけでもよい。慣れてきたら“Let me ask one thing about ...”や“”とやりとりをしてみよう。自分の理解が正しかったかどうか確認してもよい。

また、何か言われたときにそれがどういう意味かわからない場合に“”と聞き返すことも必要になる。言いたいことがあっても適切な表現がわからないとき、自分が知っている単語を総動員してでも説明を試みる。自分に不利な流れになるのを防ぎたいのなら話題を変えてみる。これもコミュニケーション能力の一つである。

しかし、英語で言いたいことを言うのはなかなか大変なことである。いつもうまく適切な表現を思いつくとは限らないし、相手の意見に同意できない場合もある。説明するのが面倒くさいと感じることもあるだろう。大切なのはコミュニケーションしようとする意欲（willing to communicate, WTC）を持つことである。もちろん、よかれと思って言ったことで相手を傷つけてしまうことがある。ことばは意味をもち、人の心に入り込むもので、発言者の責任が伴う。

ここで面倒くさいとあきらめるのは簡単かもしれないが、われわれが目指す英語コミュニケーション能力を思いだそう。母語と同じように英語で表現できるようになるためには、恥ずかしい思いをしてでも何とかしてことばとして口から英語を発する努力を怠らなくてはならない。うまく表現できなかった、理解してもらえなかったという口惜しさを次の努力へ繋げていかなくてはならない。そういった苦勞を乗り越えるから、相手に思いが通じたとき、英語で自分を理解してもらったときの喜びが大きいのだ。その成功体験が「もっと話せるようになりたい」という動機付けになる。失敗も成功も語学学習には必要な経験である。

問2 ①～④に入る文を下のA～Fから選べ。

- |                                      |                               |
|--------------------------------------|-------------------------------|
| A. What do you mean?                 | B. You should speak first.    |
| C. Thank you.                        | D. Any comments or questions? |
| E. Could you explain once again ...? | F. How do I respond?          |

問3 下線部分には、英語で質問を受けた場合の望ましい会話例が示されている。これを参考にして、話者Aと話者Bの間の会話文を作成せよ。ただし、最初のAの文はYes-no疑問文とする。

問4 文中では、英語圏での語学研修において成功体験を得るために心がけるべきことがいくつかあげられている。ここで述べられた以外で心がけるべき点について400字以内で述べよ。複数あげることが可だが、それぞれの内容を十分に説明し、具体的な例が含まれていることが望ましい。